

訓練実施結果概要

訓練名称	令和元年度習志野市総合防災訓練
目的	市民、市役所、関係機関が連携し、「自助」、「共助」の強化を目的として実施する。その際、各会場において市民の要望を踏まえた時間配分・個別課目訓練を取り入れ、広く多くの市民が参加できるような訓練とする。
日時	令和元年9月8日(日) 午前9時00分～ (医療本部・応急救護所訓練は午前8時30分～) ※終了時間は会場により異なる。
訓練項目及び会場	<p>1. 市民防災力向上訓練</p> <p>(1)市民初動訓練 市内全域</p> <p>(2)地区対策支部運営訓練 市内全小学校の指定場所(16箇所)</p> <p>(3)避難所運営訓練 市内小中高等学校体育館(26箇所)</p> <p>(4)個別課目訓練 市内小中高等学校体育館等(26箇所)</p> <p>2. 医療本部・応急救護所訓練 市庁舎GF、第一・二・七中学校、保健会館 災害拠点病院(1箇所)、救急告示病院(3箇所)</p>
訓練参加機関・団体	千葉県企業局船橋水道事務所、習志野市企業局、習志野市消防本部、習志野市消防団、東京電力パワーグリッド(株)、(株)NTT東日本-南関東、陸上自衛隊第1空挺団、航空自衛隊第1高射隊、日本大学生産工学部(順不同)
訓練参加者数	<p>1. 避難者数 2, 555名</p> <p>2. 参加機関・市職員数 529名</p> <p style="text-align: center;"><u>参加者計 3, 084名</u></p>
成果・課題	<p style="text-align: center;">～1. 全般を通じて～</p> <p>訓練全般を通じて、市民要望を取り入れた内容としたこともあり、前年度に引き続き、3, 000名以上の参加者があり、アンケート結果からも比較的高い評価を得た。また、配備職員にあっても参画意識の向上が見受けられ、課題となる事項の積極的な意見も多く出されたことから、十分な訓練成果を得られたものと判断される。</p> <p>一方で、当日は気温が30℃を超える真夏日となり、熱中症により体調不良になる方が発生し、参加者より開催時期の見直し</p>

について意見もあった。

また、例年の課題であるが参加者の7割近くが60代以上の高齢者であり、若い世代の方々の「自助」「共助」の強化には繋がらなかった。

～2. 市民初動訓練～

(1)成果

アンケートからは、避難所に来た参加者のうち例年同様約5割が身を守る安全行動であるシェイクアウトを行っていることがわかり、地震時の初動行動がある程度認知されてきていることが伺える。

また、地域で行う安否確認についても、例年同様7割近い市民が実施していることから、安否確認の重要性が認識され地域の共助力の向上が図られているものと思料する。

(2)課題

アンケートの自由記述では、町会、自治会、自主防災会等が行った安否確認の方法及び結果を報告してほしい旨の意見があった。

また、一部の地域(大久保小学校区)で実施した黄色のタオルを用いた安否確認が分かりやすかったとの声もあり、他地域の模範となるような先進的な取り組みを紹介することも検討していきたい。

～3. 地区対策支部運営訓練～

(1)成果

概ね円滑に開設・運営ができていた。

ここ数年繰り返し、運営訓練を実施しているためか、配備職員からは訓練終了後に運営を円滑にするための提案などもあり、職員の災害対応にかかる意識の向上が感じられた。

(2)課題

配備職員アンケートより、安否確認報告を円滑に受けるために、地域の町会・自治会、自主防災組織、民生委員・高齢者相談員等の名簿を用意してほしいとの要望があった。

～4. 避難所運営訓練～

(1)成果

初めて参加する市民でも運営の方法について理解できるような訓練プログラムを配布したこともあり、アンケート回答者の8割近くが運営について理解できた。

配備職員のアンケートからも参加者が自ら主体となり、運営委員長の選出やグループ編成を行っていたことが伺え、徐々にではあるが市民主体で避難所運営を行う意識が浸透してきたと考えられる。

(2)課題

当日は30℃を超える真夏日となり、防災倉庫内の水(ペットボトル2L)を飲料用として使用したが、紙コップを備蓄していなかったため、急遽、本部事務局より各避難所へ配布した。今後は、各倉庫へ紙コップを備蓄するほか、配布に適した500mlのペットボトルに切り替える等の対応を検討したい。

あわせて、熱中症対策として、参加者に対して飲料持参を呼びかけるほか、実施時期の見直し、開催時間の短縮(待ち時間の減少)等も検討する必要がある。

また、各アンケートから、「マイクの声が聞きにくい」「子供向けに防災クイズや体験等があると良い」「意見交換会に地区対策支部職員も参加するべき」「防災倉庫内のリストがほしい」「事前に地域代表者と配備職員で打合せを行いたい」等の意見があった。

～5. 個別課目訓練～

(1)成果

事前に17個の課目を提示し、地域の希望する3個の訓練を実施することを基本として構成した。この結果、アンケートの自由記述からも、「満足した」「概ね満足した」との意見を多くいただいた。

特に、自衛隊や消防関係部局等の関係機関による訓練は満足度が高かったことが伺える。

また、各会場で異なった内容としたため、配備職員が進んで地域の方と独自に調整するなど、職員の訓練参画意識の向上が見られた。

(2)課題

本訓練の進行については、市民参加者から選出された避難所運営委員長の進行により行い、配備職員等は進行のサポートをする旨の説明を事前に行っていたが、「市職員の進行が悪い」等との意見があり、今後、進行の方法については検討を要する。

また、資機材使用訓練参加者より、各種資機材(仮設トイレ、

	<p>発電機、炊き出し釜等)に関する資料を配布していただきたいとの要望があった。今後は、資機材説明用イラストの準備や参加者への資料配布等により、参加者の理解を深める訓練となるよう配慮したい。</p> <p style="text-align: center;">～6. 医療本部・応急救護所訓練～</p> <p><u>(1)成果</u></p> <p>無線による情報伝達訓練、医師を中心としたトリアージ訓練については、これまでの繰り返しの訓練の成果もあり、今回は最もスムーズな設置や実施ができたと思われる。</p> <p>医療対策本部と応急救護所では、それぞれの役割が共有できており、訓練の目的は概ね達成できたと考える。</p> <p><u>(2)課題</u></p> <p>通信状況の変化に応じ臨機応変な対応が必要となってくるため、複数の通信手段が使用できた際の通信手段の優先順位について、認識を共有する必要がある。</p> <p>また、アマチュア無線の設置・取り扱いの習熟度に関するさらなる向上が必要である。</p> <p style="text-align: center;">～7. 次年度へ向けて～</p> <p>次年度は、引き続き、市民主体による初動及び避難所運営に係る能力の向上を図るとともに、若年世代の興味を引くような訓練内容とし、幅広い世代に対する啓発に繋がるような訓練を計画したい。</p> <p>また、令和元年9月から10月にかけて発生した一連の台風を踏まえて、より実践的な訓練を実施し、市民の防災・減災意識の高揚を図りたい。</p>
問合せ先	総務部危機管理課 電話番号:047-451-1151(内線 345・561)